

学級への所属意識を高める校内別室支援

不登校児童の状況

対象児童は、小学校中学年の頃から欠席が続き不登校となった。小学校5年生からは、少しずつ校内別室への登校ができるようになり、徐々に登校日数を増やしている。現在はほぼ毎日登校し、校内別室に通う友達と共に学習したり、交流したりすることができている。教室には、一度も行けていない。

具体的な取組

○自分で決める学習計画と学習環境

自分自身でいつ・何を学ぶかを決定し、自分で決めた計画に従って学習を進めることで、学習意欲を高めた。

また、集中して学習する環境を整えるため、パーティー



○保護者との連携を深める

週1回程度の電話連絡や学期に2回の面談を実施し、学級担任と保護者で情報を共有した。学級担任が本人の体調、悩みや希望を正確に把握することで当該児童の気持ちに寄り添った支援が実現し、継続的に登校できるようになった。

成果

教室に入ることはできないものの、廊下から授業を受けられるようになった。学級への所属意識が高まり、学級の友達と自ら関わろうとする様子が見られるようになった。

○共に学ぶ機会をつくる

校内別室内には友達と共に学習できるスペースを設け、一緒に学ぶ楽しさを味わう経験ができるようにした。

学級の友達が訪れて学習したり、会話をしたりして交流することもあった。



○学級への所属意識を高める

学級通信や学級担任の話を通じて、常に学級や友達の様子を知ることで、共に学ぶ意識をもたせた。宿泊行事には参加できなかったが、しおりを読んで日程を確認したり、出発する学級の友達にメッセージを送ったりした。宿泊行事中は無人の教室で自席に着席し、学級の授業と同じ進度で学習を進めた。学級への所属意識が徐々に高まり、学級を自分の居場所として捉えられるようになっていく。

課題

中学校に向けての目標など、今後の自分について考えることに抵抗感がある。今後について前向きに考えられるように支援していく。